

プラン6 川崎の活力を生み出す産業イノベーション

アクションプログラム

国際的視点に基づく産業振興

【主な実施結果】

アジア各国のベンチャー創業拠点となる「アジア起業家村構想」の推進

- ・アジア起業家村の形成に向け、アジア主要都市から、企業や起業家の誘致や研究者などの受け入れ、ジェットロによるローカル・トゥ・ローカル事業による北京中関村地区との産業交流、経済産業省所管の外国企業誘致支援事業による中国企業6社、韓国企業7社の招へい等を実施しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

- ・「国際的視点に基づく産業振興」は、おおむね順調に実施されましたが、引き続きアジアから進出した起業家に対する支援機能・体制の充実化、市内企業とのネットワークの推進及び市内企業の国際展開に向けた組織化、ベトナムとの産業交流事業として、研修生の受け入れ等を行っていきます。
- ・また、神奈川口を視野に入れた、アジア企業家村の新規拠点形成に向けた基礎調査等を実施し、その具体化に向けた取組を進めます。

川崎の特徴を活かした産業再生

【主な実施結果】

産業誘致を促す立地競争力強化、立地企業のものづくり機能高度化と技術開発力強化、製品の複合化促進

- ・臨海部において、人類共通の課題解決と国際貢献に資する先端産業の創出と集積を促進するため、環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端技術の事業化を支援する「川崎市先端産業創出支援制度（イノベート川崎）」を創設しました。
- ・この3年間で、新技術・新製品開発等を行う企業13社、産学協同開発プロジェクトに関しては10社に支援を実施しました。

臨海部の再生に向けた産学公民連携

- ・モデル事業の一環として、産業排熱の民生活用について、大学研究者も交え事業化に向け研究開発に取り組むコンソーシアムの結成に至ることができました。

羽田空港の国際化に対応した総合的な物流機能の高度化

- ・東扇島総合物流拠点地区形成計画を策定し、港湾物流機能の高度化にふさわしい企業誘致に向けた取組を推進し、第1期の目標であった3区画とも事業予定者を決定することができました。

【課題と第2期実行計画における取組】

- ・「川崎の特徴を活かした産業再生」は、おおむね順調に実施されましたが、臨海部の再生に向け、再生プログラムの着実な推進を図るための体制づくりと、産業排熱の有効活用についての検討を進めます。
- ・さらに、先端産業創出支援制度を活用し、企業の誘致を実施し市内先端産業の創出と育成を図ります。
- ・東扇島総合物流拠点地区形成計画に基づき、第1期公募の検証を踏まえ、引き続き第2期の公募を実施し、さらなる港湾物流機能の高度化を図ります。

起業・創業の環境整備

【主な実施結果】

ベンチャー、創業、新分野進出支援のための総合的な起業家支援、企業の成長段階に応じたきめ細やかな支援

- ・「起業家オーディション」等を開催するとともに、企業の成長段階に応じた総合支援事業により、一定の成果が上がりました。

アクションプログラム

インキュベート施設の増強、創業企業や新分野進出時の技術開発を支援する産学公ネットワーク強化

- ・かわさき新産業創造センターについては、指定管理者制度を導入し、月例セミナーを開催するなど、産業振興財団との調整を十分図った上で、年間を通して入居企業に対し成長支援を行いました。

科学技術振興指針に基づく科学技術関連施策の推進

- ・科学技術サロンの設置・運営が円滑に進み、登録機関も順調に増加するなど、おおむね目標が達成できました。また、知的財産については、科学技術の成果である知的財産の創造・保護・活用の促進や、知的財産モラルの醸成を基本方針とした戦略を策定するなど目標を達成できました。
- ・聖マリアンナ医科大学とのネットワーク構築を行い、共催セミナーを開催するなど一定の成果が上がりました。
- ・新川崎・創造のもりについては、第1期契約更新に向けて、庁内に検討プロジェクトを設置するとともに、慶應義塾大学との話し合いを進めました。第3期事業に関しては、研究開発機関の誘致に向け、土地利用方針の検討を進めました。

コミュニティビジネスの事業化支援

- ・当該事業の対象であるNPO法人が利用しやすいように融資条件の緩和を実施し、関係金融機関と連携し広くPR活動を行いました。

【課題と第2期実行計画における取組】

- ・「企業・創業の環境整備」は、おおむね順調に実施されましたが、引き続き、起業の準備段階から事業化段階、発展段階に至るまで、成長段階に応じた効果的、効率的な支援を行うとともに、インキュベート施設を卒業する成長企業が市内に定着するための機能の構築（ファンドや融資制度の創設に向けた検討）に向けた取組を進めます。
- ・先端科学技術分野の研究開発の促進や産学の連携基盤を強化し、次代を担う人材を育成していくため、「川崎市知的財産戦略」に基づき、「かわさき科学技術サロン」や「知的財産スクール」「アジア知的財産フォーラム」を実施するとともに、新川崎・創造のもり第3期に向けた取組を進めます。

環境・福祉・生活文化産業の振興

【主な実施結果】

環境調和型産業の振興

- ・環境調和型産業の分野で活動を行うために必要となる情報提供セミナーを年4回開催し、延べ422名の参加がありました。また、「かわさき新エネルギー・環境展」に出展し、川崎エコタウンと川崎ものづくりブランドの取組を紹介しました。

福祉産業の振興

- ・逆見本市、福祉産業セミナーを開催し、福祉産業ネットワークの拡充を図り、「かわさき福祉産業振興ビジョン」を策定し、本市独自の福祉機器の基準（ガイドライン）である、「かわさき基準」を作成し、福祉産業の創出を支援しました。

【課題と第2期実行計画における取組】

- ・「環境・福祉産業の振興」は、おおむね順調に実施されましたが、環境調和型産業の振興に関しては、これまで実施してきた環境産業フォーラムの開催や、エコタウン事業に加え、環境技術情報センターと連携し、環境情報の収集・発信、環境産業データベースを構築するとともに、環境技術の移転を目的とした取組として「川崎国際環境技術展」を開催し、これまでの企業やNPO等の民間の動きをさらに進めます。
- ・福祉産業の振興においては、「かわさき福祉産業振興ビジョン」に基づき、利用者の自立を基本理念として策定された「かわさき基準」により福祉製品の普及を促進します。また、商店街などを活用したモデルフィールドで製品の展示やモニタリングを行うとともに、大学等と連携してネットワーク化し、利用者のニーズと開発企業のシーズのマッチングをすることで、福祉産業振興の新たな仕組みづくりを検討します。

施策計画

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
アクションプログラム：国際的視点に基づく産業振興					
○ アジア起業家村構想の推進 創業拠点施設への入居者支援や内外への情報発信等を通じて、ブランド確立を図り、アジア企業の産業集積を促進します。また、2005年度にはアジアサイエンスパーク協会大会を市内で開催します。	上海市との連携 3社進出	アジアからのベンチャー誘致 5社進出 アジアサイエンスパーク協会大会	アジア主要都市からの誘致促進		アジアのベンチャー創業の拠点づくり
実施結果	進捗状況区分 1	事業目標として掲げたアジア主要都市からの誘致件数については、順調に達成しています。また、シティーセールスやジェットロ支援事業を契機として構築された人的ネットワークなどを駆使し、中国著名企業の市内立地を実現させています。なお、ステップ1として掲げた構想全体のアナウンス、入居企業による先導的なモデルの構築、本市のシティーセールスについては達成されています。			
○ 海外企業との交流推進 海外都市との産業交流やシティプロモートを推進し、川崎のポテンシャルを広く海外企業にPRします。	(交流会・商談会の開催回数) 海外企業との交流会・商談会の開催	年5回程度			
実施結果	進捗状況区分 1	・ジェットロによるローカル・トゥ・ローカル産業交流推進事業の採択終了後の状況において、ドイツNRW州との良好な関係を継続し、現地企業との交流会・商談会を開催することができました。また、パンフレット・ホームページの多言語化を実現しました。 ・2006年度に外国企業誘致地域支援事業(経産省所管)が採択され中国企業6社、韓国企業7社を招へいしました。			
アクションプログラム：かわさきの特徴を活かした産業再生					
○ 産業競争力の強化 臨海部等に立地する企業の活動環境の向上やネットワークの構築を図るため、企業ニーズ調査を実施し、産業競争力強化に向けた施策検討・実施、ネットワークの構築を進めます。	立地企業のヒアリング	立地企業のヒアリング 施策の検討、実施とネットワークの構築			
実施結果	進捗状況区分 1	・川崎臨海部再生リエゾン推進協議会とNPO法人産業・環境創造リエゾンセンターとの連携を図り、既存立地企業のヒアリングやニーズ調査、ネットワークの構築など、臨海部再生と産業競争力強化に向けた取組を推進しました。 ・構造改革特区(国際環境特区)の新たな提案項目について検討しました。			
○ 基盤技術支援 技術支援研修等を実施し、市内企業の基盤技術の高度化を促進します。	基盤技術高度化支援研修(CAD・CAM講座等)の実施	技術支援研修等の充実			市内企業の基盤技術の高度化促進
実施結果	進捗状況区分 1	・旋盤等機械操作からNC使用の講座等幅広く実施し、基盤技術の高度化へ向けた人材育成への貢献ができました。			

進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施策計画

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
ものづくりの新技术・新製品開発等の支援 市内の中小製造業の新技术・新製品開発及びIT活用を支援し、ものづくりの高度化を図ります。	(新技术・新製品開発等の支援企業数) 年8社程度	継続実施			
実施結果 進捗状況区分 1		・当初の目標どおり、市内中小企業の新技术や新製品の開発を支援することができました。コンテストを開催し、PR製品の候補の選定を行いました。			
産学共同研究開発プロジェクト助成 市内中小製造業が大学と共同で行う技術開発や製品開発を支援し、産学連携によるものづくりの高度化・複合化を推進します。	(産学共同の技術開発・製品開発件数) 7件	8件			
実施結果 進捗状況区分 1		・ほぼ予定どおりのプロジェクト数に対して補助金を交付し、製品開発を支援することができました。補助金の交付については、適正に審査・支出を行いました。			
先端産業等立地促進情報の提供 工場立地情報システムの充実を図り、効果的な企業誘致を展開します。	(工場立地情報システムの掲載情報件数) 37件	50件			
実施結果 進捗状況区分 1		・工場立地情報システムの充実を図り、効果的な企業誘致を展開しました。 ・地域再生計画「川崎市企業誘致・産業立地促進計画」を取りまとめ、認定を受けることにより、水江町地内公共用地の民間活用を可能とし、先端産業の集積への取組を進めました。 ・川崎臨海部において、人類共通の課題解決と国際貢献に資する先端産業の創出と集積を促進するため、環境・エネルギー・ライフサイエンス分野の先端技術の事業化を支援する「川崎市先端産業創出支援制度(イノバート川崎)」を創設しました。			
臨海部産学公民連携の推進 川崎臨海部再生に資する企業間連携によるモデル事業を推進するとともに、臨海部再生に向けた取組の情報発信を図ります。	産業系排熱利用及び資源循環プロジェクトの連携調査・検討	産学公民の連携によるモデル事業化検討	モデル事業化支援		
実施結果 進捗状況区分 1		・2007年度にはモデル事業化の一環として、産業排熱の民生活用において事業化に向け研究開発に取り組むコンソーシアムの結成に至ることができ、着実に成果を出してきています。 ・臨海部地域の競争力強化と環境への取組や動向等について検討を行い、持続可能な循環型経済社会の構築をめざした取組を進めることができました。			
港湾物流機能の強化 東扇島の物流機能の強化に向け、ファズ2期、3期計画の見直しや物流動向にあわせた物流機能の高度化を推進します。	(ファズ2期、3期計画の見直し) 土地暫定利用中 港湾物流動向の調査・研究	土地利用方策、立地誘導機能の調査・検討	ファズ計画の見直し 企業誘致に向けた取組推進	企業誘致	物流機能の高度化
実施結果 進捗状況区分 1		・事業目標として掲げた土地利用方策立地誘導機能の調査・検討、企業誘致に向けた取組を促進し、企業を誘致することができました。 ・千鳥町再整備における実行計画に向けた施設配置計画や循環資源貨物の公共埠頭利用円滑化マニュアルの取組についておおむね達成できました。			

施策計画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
アクションプログラム：起業・創業の環境整備					
○ 起業化総合支援 起業準備段階や新分野進出のためのビジネスプラン作成講座と、事業化段階のためのオーディションを開催します。	ビジネスプラン作成講座 2講座 ビジネスオーディション 7回	講座やオーディション開催による起業化支援策			
実施結果	進捗状況区分 1	・企業の成長段階に応じた総合支援事業により、一定の成果が測定できました。また、課題を踏まえた今後の事業展開の方向性を検討し、見出すことができました。			
○ 新産業創造支援 かわさき新産業創造センター（KBIC）を運営し、創業者やベンチャー企業を支援します。	（かわさき新産業創造センター（KBIC）入居企業支援） 24社	KBICを通じた創業・ベンチャー企業支援			
実施結果	進捗状況区分 1	・本施設における入居率も高く、各企業の課題を認識し、その課題に基づきインキュベーションマネージャー等の専門家との連携が十分図られました。また、産業振興財団との調整も十分図った上での事業展開を実施しました。			
○ ポストインキュベーション機能の構築 KBIC等のインキュベーター施設を卒業する成長企業が、市内に定着するためのポストインキュベーション機能の構築を図り、企業の市内定着を促進します。		ポストインキュベーション機能を構築するための基礎調査	企業の市内定着支援		
実施結果	進捗状況区分 1	・KBICのインキュベーションマネージャーによる市内物件の情報提供、ファンドに関する研究会の開催等を行いました。			
○ 産学公民連携による科学技術基盤の強化 産学公民連携ネットワーク化による連携基盤の強化を図るとともに、科学技術教育を充実します。		連携基盤の強化 科学技術会議の設置準備	科学技術会議の設置		
実施結果	進捗状況区分 1	・科学技術サロンの設置・開催が円滑に進み、登録機関も順調に増加するなど、おおむね目標が達成できました。また、知的財産についても、科学技術の成果である知的財産の創造・保護・活用の促進や、知的財産モラルの醸成を基本方針とした戦略を策定するなど目標が達成できました。			
○ 科学技術を活かした研究開発機能の強化 新川崎・創造のもりや臨海部などの研究開発拠点における機能強化を図ります。		機能強化に向けた検討・調整			民間主体の事業実施への支援
実施結果	進捗状況区分 1	・第1期の契約更新に向けて、庁内に検討プロジェクトを設置するとともに、慶應義塾大学との話し合いを開始しました。第3期事業に関しては、研究開発機関の誘致に向けて、土地利用方針の検討を進めました。 ・事業目標における民間主体による実施は、第3期計画も見据えた本市と慶應義塾との関係を見据えて、移行時期を調整中ですが、セミナー等の事業は目標を上回って達成できました。			

進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。

施策計画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ ゲノム・ライフサイエンスの推進 産学公連携組織「かわさきライフサイエンスネットワーク会議」等の開催や、研究開発機関の立地誘導に伴う調整を図ります。	(ライフサイエンスに関する会議等の開催回数) 3回 研究開発機関の立地誘導調整	4回	4回	4回	-----▶
実施結果	進捗状況区分 1	継続実施			
		新規連携機関として、聖マリアンナ医科大学とのネットワーク構築を行い、共催セミナーを開催するなど、事業目標として掲げた目標については、おおむね達成できました。			
○ コミュニティビジネス支援融資 保証制度の完備されていないNPO法人等が行うコミュニティビジネスについて、資金調達のための支援を行います。		融資制度創設	安定的な融資		-----▶
実施結果	進捗状況区分 1	当該事業の対象であるNPO法人が利用しやすいように融資条件の緩和を実施していることから、今後の融資実績の推移については見守っていきます。当該事業自体は効果的な支援策となっています。			
○ たまフォーラムの活動推進 地域に根ざした産業の創出を図るため、「たま市民生活・文化産業おこしフォーラム」の活動を推進します。	(大学連携講座、セミナー等の参加者数) 地域の産業おこしに向けた大学共同講座等の開催	200人	200人	NPO化支援	地域の大学、企業、NPO等の連携による主体的な取組の推進
実施結果	進捗状況区分 1	・コミュニティビジネス講演会、起業家交流会、多摩病院との連携セミナーを新規に開拓したことにより、目標年間200人を大きく上回る参加者数が実現しました。 ・たまフォーラムの目標を明確化して、地域が主体的に取り組む体制を構築しました。 ・福祉下着、文化記録映画などのユニークな創業を支援し、育児支援カフェ計画や遊園駅前コミュニティスペース計画など将来のコミュニティビジネスの萌芽を形成しました。			
アクションプログラム：環境・福祉・生活文化産業の振興					
○ 環境調和型産業の振興 環境セミナーを開催し、参加企業間の情報交流、研究、環境に配慮した製品開発、販路拡大を支援します。	(セミナー開催回数) 年1回	年4回			-----▶
実施結果	進捗状況区分 1	・計画のとおりセミナーを4回/年開催し、延べ422名の参加者がありました。 また、新エネルギー・環境展において、市内環境関連企業の取組等を情報発信しました。			
○ 福祉産業の振興 産学公の「福祉産業創出ネットワーク」を構築し、情報提供、逆見本市、交流等を行い、福祉産業創出を支援します。	(福祉産業創出ネットワーク参加者) 100事業者	110事業者	120事業者	130事業者	ネットワークの拡大
実施結果	進捗状況区分 1	・逆見本市、福祉産業セミナーを開催し、福祉産業創出ネットワークの拡大を図ったほか、「かわさき福祉産業振興ビジョン」を策定し、本市独自の福祉機器の基準(ガイドライン)である「かわさき基準」を作成し、福祉産業の創出を支援しました。			

施 策 計 画

事業名	現 状	目 標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
○ 生活・文化産業の振興 生活産業懇談会を開催し、市内の生活・文化産業の活性化を図ります。	(生活産業懇談会開催回数) 年4回	年4回			
実施結果 進捗状況区分 1	・健康産業、福祉産業、観光産業、シニア活用などをテーマに懇談会を開催し、福祉産業振興ビジョンの策定などに結びつけました。				
○ ユニバーサルデザイン製品の創出 ユニバーサルデザインに関するセミナーを開催し、ユニバーサルデザイン対応の製品づくりのハンドブックの作成・配布などを通じて理念の普及を図ります。		ユニバーサルデザイン創出ハンドブックの作成	ユニバーサルデザインの理念普及		
実施結果 進捗状況区分 1	・2005年度のユニバーサルデザイン導入ハンドブックの作成・配布並びにかわさきデザインフォーラム及びかわさき産業デザインコンペの継続的な開催により、徐々に市内中小製造業者等へのユニバーサルデザインの理念普及を図りました。				

進捗状況区分の内容については33ページをご参照ください。